

THE LANGUAGE CONNECTION

「私の英語勉強法」特別編 杉田敏さん (NHK「実践ビジネス英語」講師)

恩師にそそられた語学への関心

NHKラジオの語学番組「実践ビジネス英語」の講師として知られる杉田敏さんが、読売新聞東京本社（東京・銀座）で11月17日に開かれたデイリー・ヨミウリ読者の集い「第3回DYファンミーティング」で自らの英語遍歴や勉強法について講演しました。その概要を「私の英語勉強法」特別編として収録します。

語学番組の講師になるまで

皆さんが関心を持っている共通のテーマは「どうすれば、英語がうまくなるか」だと思いますが、そう質問されても、どう応えたらいいかわかりません。別の講演で「なら、どうしたら、NHKの英語番組の講師になれますか」と聞かれたことがあります。今日はそれに近いテーマで話したいと思います。

私が英語を勉強したのは40-50年も前のこと。息子や娘からは「そんな石器時代の勉強法は役に立たないでしょ。だいたい昔は電子辞書もなかったし」と言われます。いずれにしても、私が英語を勉強した過程について簡単にお話しし、参考にしていただければと思います。

学校を出てから、英字新聞の記者をしたり、米国の新聞にコラムを書いたり。来日したマイケル・ジャクソンのスピーチを書いたこともあります。語学番組の講師になったのは、「戦略的ビジネス英会話」（旺文社）という本を出したのがきっかけです。NHKから当時はなかったビジネス英語の番組をやらないかという話があったので、1987年に始めました。

最初はこの本を教材に講座を進めれば良かったのですが、次の年もその次の年も行うことになり、結局、20数年続けることになりました。私が一番長いのではないかと思います。

忘れられない4人の先生

ここで、私がお世話になった何人かの英語の先生について話したいと思います。

私は水天宮（東京・中央区）の裏にあった公立の有馬中学で初めて英語に接したのですが、その時の先生が岡本駿一郎先生でした。

私は、英語がだめな教師に次々遭遇したからこそ、自分で積極的に勉強をするようになったのだと思います。

岡本先生は最初、ずっと病気で休んでいて、2学期から学校に出てきたのですが、待ちに待ったこの先生は英語が得意ではありませんでした。本当は国語の先生でした。

私は先生をいじめるのが好きで、言わば、“a student from hell”（地獄から来た生徒）でしたから、先生に対して「そんなことも知らないんですか」といったことを言うわけですよ。そんな私を先生は「そうかよく知ってるな」と軽く受け流していました。この先生には「大人の包容力」を教えもらった気がします。

2人目は、当時千葉大医学部生で家庭教師をしてくれた濱野恭一先生。この先生もドイツ語は得意でしたが、英語はだめで、「ドイツ」が英語で Germany と言うことを知りませんでした。

当時の教科書は、英文学者の福原麟太郎博士が書いた“The Globe Readers”でした。学会で「レッスンワンの文がこれでいいののか」の論争を起こしたとされる変わった教科書で、その最初の文は“A dog. A big dog.”でした。

英語が苦手な濱野先生はこれを見て、「この文には動詞がないのに、文と言えるのか」と腕組みをし、考え込んでしまった。私はそれが印象的で、その瞬間から英語に興味を持ち始めたのだと思います。好奇心をそそられたわけですよ。

3人目は「岩波英和辞典」の編集で知られる田中菊雄先生です。私の知っている「本当の英語の先生」がこの人です。独学で英語を修め、山形大、神奈川大の教授になった人です。

私は中学時代、1学期間だけ YMCA の英語

学校に通い、講師だった田中先生の授業を受けたことがあります。自分で書かれた辞書を片手に授業を行い、「勉強のしすぎで目が悪くなった」と話されたのを覚えています。

先生の著書「英語研究者のために」「知的人生に贈る」は教職にある方に強くお勧めしたいと思います。先生の教育者としての情熱が伝わってくるはずですよ。

最後がルドルフ・フレッシュ (Rudolf Flesch)。会って見たかった人ですが、86年に亡くなりました。話すように書く colloquial writing を勧め、新聞、雑誌記者に多大な影響を与えたとされる、文章スタイルの研究者です。著書の“The Art of Readable Writing”は私のバイブルで、これほど繰り返し読んだ本はありません。お勧めします。

新テーマが続々

今期の「実践ビジネス英語」は、新テーマを次々取り上げ、過去最高のシリーズだと自負しています。病院食や機内食について、また「ビジネスマンはどんな状況なら、ガムをかむことが許されるのか」といった“Silly questions”（ばかばかしい質問）について、お届けします。

来年4月以降は、もっと面白くなります。英語での雑談の仕方や、日本語アクセントを取り除いていく“Accent reduction”についても取り上げようと思います。

プロフィール

ブラップジャパン社長。1944年、東京都生まれ。青山学院大卒。米オハイオ州立大学院でジャーナリズム修士号取得。米PR会社パーソン・マーステラ、日本ゼネラルエレクトロニクスなどを経て、87年からNHK「実践ビジネス英語」講師。



撮影・清水敏明

読売新聞東京本社で11月17日に開かれた「第3回DYファンミーティング」で講演する杉田敏さん